

〔書評・紹介〕

静岡中心街誌編集委員会編 静岡中心街誌

本書は編集委員会から委嘱された専門委員（安本博・細井淳志郎・若尾俊平・飯塚伝太郎）四氏によって調査・執筆されたものであり、本編の外「静岡実業新興史・静岡中心街近代誌年表」（別冊）および「静岡中心街周辺図」（添付図）によって構成されている。

委員長の安本、委員の細井・若尾の諸氏は、すでに「中蘂科誌」「用宗町誌」「大谷誌」など多くの地方誌を手掛けられている。本書の特色は、内容的特色のみならず立案から刊行に至る過程をも含めて、多くの注目すべき点を包含している。

第一点は編集委員会が、本書が対象とする市民によって組織され、市民組織の主導の下で各専門分野をもつ研究者が協力する形で事が運ばれたこと（あとがき四八九～五〇一頁）、第二点は執筆者の略歴と専門が示すように、それぞれの執筆者の開陳する内容と文章に個性が表われていること、第三は従来の地方誌の形態を踏襲しつつも、そこに新しい形への摸索が読みとれることです。

第一の特色は、執筆者達がこれまで手掛けて来た中蘂科・用宗・大谷の各誌の刊行にも共通するものであり、この組織作りと運用が、結果的に本書の本質的特色を規定しているものともいえよう。すなわち、生産（生活）を営み続けて来た人々が生活を語り、その中で保存してきた資料が提示され、庶民を前面に押し出した地方誌編纂に執筆者が応えようとする態度が第七章以下に占める頁数に如

実に示されていることである。しかも地方中心としつつも常にそれを日本全体の中で位置付けようとする努力が随所に払われている。

第二点については例えば、飯塚が十二部「大正期の繁栄と不景気」の中で述べている。大洪水・米騒動・大震災のようにあたかも口舌流暢を感じさせ、第三・五部「平安・鎌倉時代の駿府」「戦国争乱期の駿府」では安本が郷土史家の博識を詳らかに展開して見せている。両者に対し、第七・八部の若尾や、第一・十一・十三部を担当する細井の文体が分析的考察に重点が置かれているのが対象的である。

第三の特色は例えば、若尾が第七部で取り上げる「駿府の町割り」第一章用尺の問題」「第二章駿府型の町割り」で示されるように矢守一彦の業績を礎に地租改正当時の地籍図を利用し京、江戸、名古屋型の中から駿府型の町割りを証明してみせており、静岡市域のもつ回廊的性格を示す好資料を提供してくれる。

このような中で細井の担当する部分は、従来までの各誌に見られない動きを見ることが出来る。特に第一部「中心街区とその自然環境」において筆者の苦勞を痛感させられる。従来からの一般的な地理に対するイメージが地理学専門である筆者に第一部の執筆を割り当てたのであるが、東西約1Km、南北0.6Kmの狭い範囲での自然環境の粗描は、特に中心街が、自然環境に最も影響されやすい第一次産業の生産空間でないため、N値の測定結果・ボーリング資料による柱状図を駆使した地盤支持力の問題に重点が置かれている。このため第一部の結果、直接的に第二部へと関連はしないものの、第十三部都市再開発の検討に至ってそれが脈々と回生する趣向が取

られている。第十三部の中心テーマを形成する商店の立地変動は、街路における通行量調査や、高地価分布の移動を手掛りに詳細な検討が施されているものの、表（四五〇・四五一頁）および図（四五三～四五四頁）に若干の疑問がないわけではない。

更に全般を通して展開される著述の中に詳細な町名・通り名が述べられているにもかかわらず、添付された図幅にこれら町名・通り名の注記がないのは地図に記入が可能と思われるだけに残念である。しかし本書が今まで執筆者連が出版された各誌以上に地域研究の重要な文献であることについては多言を要しない。B五版本編 五〇四頁 別冊一四一頁 アート写真版二〇頁 一九七四年十一月三日 静岡中心街誌編集委員会発行 非売品（松村祝男）

〔会務報告〕

会則の改訂について

前号でお知らせしましたように、本会では会則の改訂を行なうことになり、会則検討委員会からの答申案を基に常任委員会で慎重審議の結果、「歴史地理学会会則改訂案」を作成し提示いたしました。これを去る四月二十九日の本年度評議員会、総会に提案した結果、原案どおり承認されました。

常任委員会ではさらに細則・付則につき検討を加え、また役員選挙規定案を作成して明年度の評議員会、総会にお諮りし、昭和五三年四月から新会則で発足する予定です。よろしく御協力下さるようお願い申し上げます。（前号掲載の改訂案のうち、第一章第三条3

項の歴史地理学会報は歴史地理学会会報の誤りです。）

（常任委員会）

会費の改訂について

前号の会務報告でお知らせしたように、昨年一月二日付をもって会費検討委員会（岸本実主査）より提出されました「会費の検討についての結果報告」に基づき、常任委員会で慎重審議をした結果、昭和五一年度より、本会の会費を二、五〇〇円から四、〇〇〇円に改訂することになりました。この件につき、去る四月二十九日の評議員会、総会にお諮りしましたところ、改訂案通り承認されました。それで、

「歴史地理学会の会費を年額四、〇〇〇円（紀要・会報代その他一切の経費を含む）とする」ことになりましたので、すでに二、五〇〇円を納入済みの会員も、御面倒ながら、追加分一、五〇〇円を御納入下さるようお願い申し上げます。

これにより、本会では、会費検討委員会からの要望である、学会事務の強化と会報の充実に努力致す所存です。何とぞよろしく御協力御支援の程をお願い申し上げます。（常任委員会）

昭和五一年度評議員会・総会報告

昭和五一年度評議員会・総会は、昭和五一年四月二十九日第一九回大会当日日本女子大学において開催され、以下のよるな事項について報告・審議が行なわれた。

○評議員会